

高座清掃施設組合
新ごみ処理施設整備・運営事業

審査講評

平成 27 年 3 月

高座清掃施設組合
施設整備検討委員会

目次

1. 事業の概要	1
2. 選定方法等	2
3. 事業者選定までの経過及び委員会の開催経過.....	3
4. 審査の方法	6
5. 審査結果.....	8
6. 落札候補者の選定.....	12
7. 総評.....	17

1. 事業の概要

(1) 事業名称

新ごみ処理施設整備・運営事業

(2) 公共施設の種類

一般廃棄物処理施設

(3) 公共施設の管理者

高座清掃施設組合 組合長 内野 優

(4) 事業目的

高座清掃施設組合（以下、「組合」という。）では、構成市である海老名市、座間市、綾瀬市から排出される一般廃棄物の適正な処理を継続するために、新たなごみ処理施設の整備が必要となっている。

本事業は、新ごみ処理施設の設計・建設及び運営・維持管理について、民間企業のノウハウの活用により効率的、効果的かつ経済的に実施するとともに、温室効果ガスの排出量削減、周辺環境との調和、地域防災の拠点化及び地域に開かれた施設機能に配慮し、循環型社会の構築を推進することを目的とする。

(5) 本施設の概要

①事業実施場所	神奈川県海老名市本郷1番地の1
②施設の種類	高効率ごみ発電施設 122.5t/24h×2炉=245t/日 マテリアルリサイクル施設 14t/5h プラザ棟
③処理方式	高効率ごみ発電施設は、次の3方式から入札参加者が提案する方式 ①ストーカ炉+灰資源化方式 ②シャフト炉式ガス化熔融方式 ③流動床式ガス化熔融方式 マテリアルリサイクル施設は、受入+破碎+磁気選別+アルミ選別+可燃物選別+不燃物選別+貯留・保管
④事業方式	民間資金等の活用による公共施設等の整備等の促進に関する法律（平成11年法律第117号）に準じて、DBO（Design:設計、Build:建設、Operate:運営）方式により実施する。 民間事業者（以下「事業者」という。）が、組合の所有となる本施設の設計・建設及び運営・維持管理に係る業務を一括して行うものとする。

⑤事業期間	<ul style="list-style-type: none"> ・設計・建設期間 建設工事請負契約締結日から平成31年3月末までの約4年間 ・運営・維持管理期間 平成31年4月から平成51年3月末までの20年間
-------	--

2. 選定方法等

(1) 事業者の選定方法

事業者の選定は、公平性、透明性の確保の観点から、地方自治法施行令（昭和22年政令第16号。以下「政令」という。）第167条の10の2の規定に基づく総合評価一般競争入札により実施した。

(2) 施設整備検討委員会等の設置

組合は、有識者、市民、行政の12名で構成する「施設整備検討委員会」、有識者で構成する「技術検討委員会」、有識者、行政で構成する「事業者選定委員会」（以下総称して「委員会」という。）を設置した。

(施設整備検討委員会)

委員 長：川本 克也	副委員長：加藤 豊彦
委 員：寺嶋 均	委 員：荒井喜久雄
委 員：山本 准	委 員：増山 昭男
委 員：清水 盛雄	委 員：木村 和雄
委 員：石川 榮一	委 員：鴨志田 進
委 員：小俣 博	委 員：古塩 政由

(技術検討委員会)

委員 長：寺嶋 均	副委員長：荒井喜久雄
委 員：川本 克也	委 員：谷川 哲男
委 員：柿沼 潤一	

(事業者選定委員会)

委員 長：荒井喜久雄	副委員長：神部 孝志
委 員：寺嶋 均	委 員：川本 克也
委 員：岩野 修一	委 員：森山 謙治

(順不同)

3. 事業者選定までの経過及び委員会の開催経過

(1) 施設整備検討委員会

日付	開催回	内容
平成 25 年 11 月 13 日(水)	第 6 回	1)ごみ処理施設更新事業者選定のスケジュールについて 2)各委員会の役割について 3)事業内容等について
平成 26 年 4 月 14 日(月)	第 7 回	1)第 6 回委員会の議事録について 2)事業者選定のスケジュールについて 3)高効率ごみ発電施設の採用可能 3 機種の概要について 4)プラントメーカーへのヒアリング結果について 5)総合評価落札方式について 6)実施方針で定める事項について 7)本事業の業務範囲、事業者の収入、入札参加資格要件について
平成 26 年 6 月 28 日(土)	第 8 回	1)第 7 回委員会の議事録について 2)事業者選定のスケジュールについて 3)落札者決定基準について 4)特定事業の選定について
平成 26 年 7 月 14 日(月)	第 9 回	1)第 8 回委員会の議事録について 2)入札公告資料の概要説明について 3)事業者選定のスケジュールについて 4)実施方針及び特定事業の選定について 5)入札説明書について 6)落札者決定基準について 7)要求水準書について 8)モニタリング基本計画書について 9)事業契約書について
平成 26 年 7 月 29 日(火)	第 10 回	1)第 9 回委員会の議事録について 2)入札説明書について 3)落札者決定基準について 4)要求水準書について 5)モニタリング基本計画書について 6)事業契約書について
平成 26 年 10 月 17 日(金) (第 9 回技術検討委員会・第 5 回 事業者選定委員会と同時開催)	第 11 回	1)第 10 回委員会の議事録について 2)要求水準書等の改訂について
平成 26 年 11 月 5 日(水)	第 12 回	1)廃棄物処理施設の事業方法と総合評価落札制度について
平成 26 年 12 月 12 日(金)	第 13 回	1)第 11 回委員会の議事録について 2)総合評価に係る評価方法について

平成 27 年 2 月 9 日(月) (第 10 回技術検討委員会・第 6 回 事業者選定委員会と同時開催)	第 14 回	1) 第 13 回委員会の議事録について 2) 基礎審査結果報告について 3) プレゼンテーション・ヒアリング等について
平成 27 年 3 月 2 日(月) (第 11 回技術検討委員会・第 7 回 事業者選定委員会と同時開催)	第 15 回	1) 事業提案に係るプレゼンテーション及びヒアリング 2) 非価格要素審査 3) 非価格要素審査結果報告
平成 27 年 3 月 10 日(火)	第 16 回	1) 第 14 回委員会の議事録について 2) 総合評価一般競争入札結果について 3) 審査講評について

(2) 技術検討委員会

日付	開催回	内容
平成 26 年 3 月 2 日(日)	第 6 回	1) プラントメーカーへのヒアリング結果について 2) 焼却量と施設規模について 3) 実施方針について 4) 落札者決定基準について 5) 要求水準書について 6) モニタリング基本計画について
平成 26 年 6 月 28 日(土)	第 7 回	1) 第 6 回委員会の議事録について 2) 事業者選定のスケジュールについて 3) 実施方針(案)について 4) 要求水準書(案)について 5) モニタリング基本計画(案)について
平成 26 年 7 月 21 日(月) (第 4 回事業者選定委員会 と合同開催)	第 8 回	1) 第 7 回委員会の議事録について 2) 入札説明書について 3) 落札者決定基準について 4) 要求水準書について 5) モニタリング基本計画書 6) 事業契約について
平成 26 年 10 月 17 日(金) (第 11 回施設整備検討委員会・第 5 回事業者選定委員会と同時開催)	第 9 回	1) 第 8 回委員会の議事録について 2) 要求水準書等の改訂について
平成 27 年 2 月 9 日(月) (第 14 回施設整備検討委員会・第 6 回事業者選定委員会と同時開催)	第 10 回	1) 第 9 回委員会の議事録について 2) 基礎審査結果報告について 3) プレゼンテーション・ヒアリング等について
平成 27 年 3 月 2 日(月) (第 15 回施設整備検討委員会・第 7 回事業者選定委員会と同時開催)	第 11 回	1) 事業提案に係るプレゼンテーション及びヒアリング 2) 非価格要素審査結果報告

(3) 事業者選定委員会

日付	開催回	内容
平成 26 年 3 月 31 日(月)	第 1 回	1) 事業者選定委員会の役割について 2) 事業者選定及び委員会スケジュールについて 3) 実施方針及び入札説明書について 4) 落札者決定基準について 5) 要求水準書の概要について
平成 26 年 6 月 24 日(火)	第 2 回	1) 第 1 回委員会議事録について 2) 事業者選定委員会の役割及び委員会スケジュールについて 3) 落札者決定基準について 4) 入札説明書について
平成 26 年 7 月 5 日(土)	第 3 回	1) 第 2 回委員会議事録について 2) 委員会スケジュールについて 3) 落札者決定基準について 4) 入札説明書について
平成 26 年 7 月 21 日(月) (第 8 回技術検討委員会と合同開催)	第 4 回	1) 第 3 回委員会の議事録について 2) 入札説明書について 3) 落札者決定基準について 4) 要求水準書について 5) モニタリング基本計画書 6) 事業契約について
平成 26 年 10 月 17 日(金) (第 11 回施設整備検討委員会・第 9 回技術検討委員会と同時開催)	第 5 回	1) 第 4 回委員会の議事録について 2) 要求水準書等の改訂について
平成 27 年 2 月 9 日(月) (第 14 回施設整備検討委員会・第 10 回技術検討委員会と同時開催)	第 6 回	1) 第 5 回委員会の議事録について 2) 基礎審査結果報告について 3) プレゼンテーション・ヒアリング等について
平成 27 年 3 月 2 日(月) (第 15 回施設整備検討委員会・第 11 回技術検討委員会と同時開催)	第 7 回	1) 事業提案に係るプレゼンテーション及びヒアリング 2) 非価格要素審査結果報告

4. 審査の方法

本事業における審査の方法は、次のとおりとした。

(1) 入札参加資格審査

組合は、入札参加者が入札参加表明時に提出する入札参加資格審査申請書等について、入札参加資格要件の具備を確認し、入札参加資格審査結果を入札参加者の代表企業に通知する。

(2) 基礎審査

事業提案書等に記載された内容が、落札者決定基準に示す基礎審査項目をすべて満たしていることを確認する。

なお、要求水準書について基礎審査項目を1項目でも満たしていないことが確認された場合は失格とする。

基礎審査項目

① 提出書類について

- ・ 必要な書類が必要部数提出されているか。
- ・ 提案全体について、様式にしたがった「項目の構成」、「枚数」等となっているか。

② 提案内容について

- ・ 提案書全体について、2通り以上の提案や記載漏れ、又は提案事項間の齟齬、矛盾等がないか。
- ・ 設計・建設業務に関し、要求水準書（設計・建設業務編）の内容を満足しているか。
- ・ 運営・維持管理業務に関し、要求水準書（運営・維持管理業務編）の内容を満足しているか。

(3) 総合評価

1) 審査方法

事業提案書に記載された提案内容について、非価格要素と価格要素について得点化を行う。施設整備検討委員会は、非価格要素の得点と入札価格の得点との合計（総合評価点）が最も高い提案を行った入札参加者を落札候補者として選定する。

2) 審査項目及び配点

非価格要素と価格要素の配点及び非価格要素の審査項目は次に示すとおりである。

表 審査項目及び配点

審査項目	配点
1. 事業全般	
1.1 本事業への取り組み方針	4 点
1.2 本事業に対する姿勢	8 点
1.3 本事業の安定性・安全性	12 点
小計(a)	24 点
2. 国内最高水準の安全・安心な施設づくり	
2.1 安定処理・安定稼働	66 点
2.2 環境負荷の削減	46 点
2.3 災害時における処理対応及び防災の拠点	20 点
小計(b)	132 点
3. 資源循環型社会の拠点となる施設づくり	
3.1 資源循環型社会の拠点	14 点
小計(c)	14 点
4. 市民の生活・活動をサポートし、利用したいと思われるような施設づくり	
4.1 地域に開かれた施設	12 点
4.2 地域社会への貢献	12 点
小計(d)	24 点
5. 地域の生活環境に溶け込んだ環境調和型の施設づくり	
5.1 自然豊かな周辺環境との調和	
(1) 施設の外観、デザイン計画	8 点
(2) 緑化計画及び緑地保全計画	8 点
小計(e)	16 点
非価格要素合計得点(a+b+c+d+e)	210 点
6. 入札価格に関する事項	
6.1 設計・建設費	30 点
6.2 運営・維持管理費	60 点
価格要素合計得点	90 点
総合評価得点	300 点

3) 非価格要素の得点化方法

施設整備検討委員会は、事業提案書の非価格要素について入札説明書及び要求水準書に示す要件を超える部分について、その審査項目毎に次の表に示す5段階評価を行った結果に基づき、最終的な提案内容の得点を付与する。

得点は少数点第三位以下を四捨五入し、小数点第二位までを求めた値とする。

表 非価格要素の得点化方法

評価	判断基準	得点化方法
A	特に優れている	配点×100%
B	AとCの間	配点×75%
C	優れている	配点×50%
D	CとEの間	配点×25%
E	要求水準を満足している	配点×0%

4) 価格要素の得点化方法

価格要素の得点は、設計・建設業務の入札価格の価格要素点と運営・維持管理業務の価格要素の得点を合算する。

①設計・建設業務の価格要素点

設計・建設業務の価格要素点については、次の算定式により得点を付与する。

(算定式)

$$\text{設計・建設業務の価格要素点} = 30 \text{ 点} \times (\text{最低入札金額} / \text{当該入札金額})$$

②運営・維持管理業務の価格要素点

運営・維持管理業務の価格要素点については、次の算定式により得点を付与する。

(算定式)

$$\text{運営・維持管理業務の価格要素点} = 60 \text{ 点} \times (\text{最低入札金額} / \text{当該入札金額})$$

ア. 入札参加者の中で、最低の入札価格となった提案に対し、価格に関する配点の満点を付与する。

イ. 他の入札参加者の提案については、最低入札価格との比率により算出する。

得点は少数点第三位以下を四捨五入し、小数点第二位までを求めた値とする。

5. 審査結果

(1) 入札参加資格審査

平成26年8月1日に入札公告を行い、平成26年9月29日までに入札参加表明書及び入札参加資格審査申請書等を受け付けたところ、以下の3グループ（以下「当該グループ」という。）から入札参加の申請があった。入札参加資格審査にて入札参加資格を有することを確認し、平成26年10月3日に当該グループに対し入札参加資格審査結果を書面にて通知した。

なお、当該入札参加者には、事業提案書作成にあたって、次のグループ名を用いるよう通知した。

表 入札参加者一覧表

入札参加者（代表企業）	グループ名
三菱重工環境・化学エンジニアリング株式会社グループ	ほし グループ
荏原環境プラント株式会社営業本部グループ	やま グループ
新日鉄住金エンジニアリング株式会社グループ	ゆき グループ

【ほし グループ】

代表企業	三菱重工環境・化学エンジニアリング株式会社	
構成員	重環オペレーション株式会社	
協力企業	焼却灰等資源化企業	ツネイシカムテックス埼玉株式会社
		メルテック株式会社
		中部リサイクル株式会社
	その他	株式会社フジタ横浜支店
		人の森株式会社
		相鉄企業株式会社

【やま グループ】

代表企業	荏原環境プラント株式会社 営業本部	
構成員		
協力企業	焼却灰等資源化企業	中部リサイクル株式会社
		メルテック株式会社
		中央電気工業株式会社
	その他	中電興産株式会社
		株式会社東亜環境コーポレーション
		親栄興業株式会社

【ゆき グループ】

代表企業	新日鉄住金エンジニアリング株式会社	
構成員	日鉄住金環境プラントソリューションズ株式会社	
	株式会社市川環境エンジニアリング 横浜支店	
協力企業	焼却灰等資源化企業	三池製錬株式会社
		中央電気工業株式会社
	副生成物引取企業	株式会社エヌジェイ・エコサービス

(2) 基礎審査

平成27年1月26日に当該グループから事業提案書の提出があり、基礎審査を行ったところ、基礎審査の項目すべてを満たしていることを確認した。

(3) 総合評価

1) 非価格要素の得点化

施設整備検討委員会は当該グループの事業提案書の非価格要素について、落札者決定基準に基づき加点審査を行った。

審査結果は、次頁「非価格要素審査結果一覧表」に示すとおりである。

表 非価格要素審査結果一覧表

審査項目			No.	配点	ほし グループ	やま グループ	ゆき グループ	
大項目	中項目	小項目			【代表企業】	【代表企業】	【代表企業】	
					三菱重工環境・化学エンジニアリング株式会社	荏原環境プラント株式会社営業本部	新日鉄住金エンジニアリング株式会社	
1. 事業全般								
	1.1	本事業への取り組み方針	1	4	2.92	2.42	2.75	
	1.2	本事業に対する姿勢	2	8	4.83	5.00	5.50	
	1.3	本事業の安定性・安全性	3	6	4.13	3.88	4.00	
			4	6	3.88	3.63	3.88	
2. 国内最高水準の安全・安心な施設づくり								
2.1	安定処理・安定稼働	(1) 処理システムの安全性・安定性	5	8	5.67	4.67	4.83	
			6	8	4.83	4.83	5.33	
			7	8	4.33	4.50	4.50	
			8	10	6.04	7.08	6.04	
			9	8	5.67	4.17	6.17	
		(3) 施工計画	10	6	4.50	3.38	3.38	
		(4) 施設の配置・動線計画	11	8	5.67	4.83	4.33	
		(5) 長寿命化計画	12	10	7.29	6.67	6.25	
	2.2	環境負荷の削減	(1) 副生成物及び焼却灰等の適正処理、資源化及び、排出量低減化	13	20	12.92	10.83	13.75
				14	8	6.00	5.17	4.00
				15	10	7.29	6.67	4.79
				16	8	5.33	5.67	4.33
2.3	災害時における処理対応及び防災の拠点	(1) 自然災害等に対する対応	17	10	6.04	6.88	6.25	
			18	10	6.46	7.29	6.25	
3. 資源循環型社会の拠点となる施設づくり								
3.1	資源循環型社会の拠点	(1) 環境学習機能、啓発施設	19	6	4.13	3.25	3.75	
			20	8	5.83	5.33	5.17	
4. 市民の生活・活動をサポートし、利用したいと思われるような施設づくり								
4.1	地域に開かれた施設	(1) 情報公開	21	6	4.00	3.25	4.00	
			22	6	3.88	3.75	3.50	
4.2	地域社会への貢献	(1) 企業、人材活用に関する貢献	23	6	3.75	3.75	4.25	
			24	6	3.88	3.63	3.50	
5. 地域の生活環境に溶け込んだ環境調和型の施設づくり								
5.1	自然豊かな周辺環境との調和	(1) 施設の外観、デザイン計画	25	8	5.83	5.33	4.33	
			26	8	4.83	5.33	4.83	
非価格要素得点合計			210		139.93	131.19	129.66	

2) 価格要素の得点化

落札者決定基準に基づき、当該グループの入札価格について得点化を行った。審査結果は、次の「価格要素結果一覧表」に示すとおりである。

表 価格要素結果一覧表

項目		ほし グループ	やま グループ	ゆき グループ	
		三菱重工環境・化学エンジニアリング株式会社グループ	荏原環境プラント株式会社営業本部グループ	新日鉄住金エンジニアリング株式会社グループ	
入札価格	(円)	28,900,000,000	36,590,000,000	33,999,895,376	
内 訳	①設計・建設費	金額(円)	16,260,000,000	19,890,000,000	23,756,000,000
		得点(点)	30.00	24.52	20.53
	②運営・維持管理費	金額(円)	12,640,000,000	16,700,000,000	10,243,895,376
		得点(点)	48.63	36.80	60.00
価格要素の得点(①+②)	得点(点)	78.63	61.32	80.53	

6. 落札候補者の選定

入札に参加した当該グループの立会いのもと、非価格要素の審査結果及び入札書の開札を行った。その結果、当該グループの入札価格が、予定価格の範囲内であることを確認した。

施設整備検討委員会では、非価格要素の得点と価格要素の得点を合計して総合評価点を算定し、総合評価点が最も高い【ほしグループ】を落札候補者として選定した。

表 総合評価結果

項目	ほし グループ	やま グループ	ゆき グループ
	三菱重工環境・化学エンジニアリング株式会社グループ	荏原環境プラント株式会社営業本部グループ	新日鉄住金エンジニアリング株式会社グループ
①非価格要素の得点	139.93	131.19	129.66
②価格要素の得点	78.63	61.32	80.53
総合評価点(①+②)	218.56	192.51	210.19

なお、各グループの事業提案書について、施設整備検討委員会が評価した事項を次に示す。

表 非価格要素の評価の概要 (1/4)

審査項目			No.	評価の概要
大項目	中項目	小項目		
1. 事業全般				
	1.1 本事業への取り組み方針		1	<ul style="list-style-type: none"> 各グループとも施設整備の基本コンセプトと基本コンセプトを遵守するための基本方針を理解し、本事業への具体的な取り組み方針とその対応が示されており評価された。
	1.2 本事業に対する姿勢	(1) 実施体制	2	<ul style="list-style-type: none"> 各グループとも設計・建設業務及び運営・維持管理業務におけるバックアップ体制も含めた具体的かつ実現可能な体制の提案が評価された。 ほしグループは、設計・建設業務において具体的な技術者を配置する提案が評価された。 やまグループとゆきグループは、運営・維持管理業務において余剰電力の売電先企業の提案が評価された。 ゆきグループは、SPC社長の配置に関する提案が評価された。
	1.3 本事業の安定性・安全性	(1) 本事業のリスク管理	3	<ul style="list-style-type: none"> 各グループとも本事業のリスクに対して適切な管理方法と第三者によるチェック体制に関する提案及び具体的なリスクの抽出とその対応策の提案が評価された。 ほしグループとゆきグループは、リスクの役割と責任を明確化する具体的な方法の提案が評価された。 やまグループは、リスク管理に関する具体的な提案が評価された。
		(2) 本事業の長期収支計画の安定性	4	<ul style="list-style-type: none"> 各グループともSPCからの支払いを、組合からの入金後とすることで、SPCの資金繰りの逼迫を回避する提案が評価された。 ほしグループとゆきグループは、SPCが支払う業務対価に関する提案が評価された。 やまグループは、代表企業による具体的な財政支援策や緊急体制の具体的な提案が評価された。

表 非価格要素の評価の概要 (2/4)

審査項目			No.	評価の概要
大項目	中項目	小項目		
2. 国内最高水準の安全・安心な施設づくり				
2.1 安定処理・安定稼働	(1) 処理システムの安全性・安定性		5	<ul style="list-style-type: none"> ・ほしグループは、40年以上の稼働実績を持った方式であり、ごみ質、ごみ量の対応可能範囲が広い提案が評価された。 ・やまグループは、自動燃焼制御の提案が評価された。 ・ゆきグループは、従来のごみ質、ごみ量の変動に追従性を向上させる提案が評価された。
			6	<ul style="list-style-type: none"> ・各グループとも処理能力に十分な余裕と長期間の年間稼働日数の提案が評価された。
			7	<ul style="list-style-type: none"> ・各グループとも公害防止基準等を遵守するための具体的なモニタリング方法が示され、モニタリング項目や頻度も要求水準以上の提案が評価された。
			8	<ul style="list-style-type: none"> ・各グループとも長期にわたる安定稼働するための具体的な対策とそのモニタリング方法の提案が評価された。 ・ほしグループは、運転管理や排ガス監視等に関する独創的な提案が評価された。 ・やまグループは、受入禁止物、バグフィルタ及び灰搬送に関する独創的な提案が評価され、全国及び近隣施設によるバックアップ体制も評価された。 ・ゆきグループは、モニタリングに関して現場支援型の独創的な提案が評価された。
	(2) 事業用地造成計画		9	<ul style="list-style-type: none"> ・各グループとも軟弱地盤対策について具体的な提案が評価された。 ・ほしグループは、側方流動対策と盛土工事について独創的で具体的な提案が評価された。 ・やまグループは、汚染土壌対策に具体的な提案が評価された。 ・ゆきグループは、側方流動対策とごみピットの工事における対策で独創的で具体的な提案が評価された。
	(3) 施工計画		10	<ul style="list-style-type: none"> ・各グループとも狭小な敷地での施工に関して安全性や工期短縮の具体的な提案が評価された。 ・ほしグループは、安全管理方法や目久尻川の水位監視等に関する独創的な提案が評価された。 ・やまグループは、緊急対応基準に関する具体的な提案が評価された。 ・ゆきグループは、目久尻川の水位に関する監視方法等の独創的な提案が評価された。
(4) 施設の配置・動線計画		11	<ul style="list-style-type: none"> ・ほしグループとやまグループは、周辺施設と一体となったプラザ棟と工場棟の配置計画としており、周辺施設からの安全な動線も考慮されていることが評価された。 ・やまグループとゆきグループは、収集車両と一般車両の入口を別々に設け安全性を向上させる提案が評価された。 	
(5) 長寿命化計画		12	<ul style="list-style-type: none"> ・各グループとも耐用年数30年間とする提案が評価された。 ・ほしグループは、プラント設備に大規模改修を要しない提案と稼働後15年目に独自の点検及び維持管理に関する提案が評価された。 ・やまグループは、主要設備の大規模改修を前倒して実施する提案と稼働後15年目に独自の点検および維持管理に関する提案が評価された。 ・ゆきグループは、事業終了後に次期運営事業者への協力内容の提案が評価された。 	

表 非価格要素の評価の概要 (3/4)

審査項目			No.	評価の概要
大項目	中項目	小項目		
	2.2環境負荷の削減	(1)副生成物及び焼却灰等の適正処理、資源化及び、排出量低減化	13	<ul style="list-style-type: none"> 各グループとも焼却灰等の発生抑制対策が講じられており、焼却灰等の資源化に関しては複数の資源化企業が確保されているとともにバックアップ体制の提案が評価された。 各グループとも焼却灰等の有効利用に関する具体的なモニタリングの提案が評価された。 ほしグループの焼却灰等の発生抑制として、先進的な燃焼方法と排ガス処理方法の提案が評価された。 やまグループの焼却灰等の発生抑制として、先進的な燃焼方法とマテリアルリサイクル施設の残さ発生抑制の提案が評価された。 ゆきグループは、副生成物の引取及び有効利用先が複数確保されていることと焼却灰の発生量が最も少ない提案が評価された。
		(2)処理システム上の省エネルギー化	14	<ul style="list-style-type: none"> 各グループとも省エネルギーに関する具体的な提案が評価された。
		(3)熱回収及び有効利用システム	15	<ul style="list-style-type: none"> ほしグループは、最も高い発電効率と最も多い売電電力量が評価された。 やまグループとゆきグループは、売電先に関する独自の対策の提案が評価された。
		(4)温室効果ガスの排出量	16	<ul style="list-style-type: none"> 各グループとも主に売電により二酸化炭素の排出量が削減される提案が評価された。 ほしグループは、最も二酸化炭素の排出量を削減する提案となっていることが評価された。 やまグループは、独自の購入電力方法による二酸化炭素排出量の削減の提案が評価された。 ゆきグループは、独自の熔融飛灰の運搬方法の採用による二酸化炭素排出量削減の提案が評価された。
	2.3災害時における処理対応及び防災の拠点	(1)自然災害等に対する対応	17	<ul style="list-style-type: none"> 各グループとも地震や洪水等の具体的な災害対策の提案がされ、災害発生後10日以上連続運転が可能な薬品等の備蓄の提案が評価された。 ほしグループは、代表企業や協力企業の至近性と協力を生かした早期復旧対策の提案が評価された。 やまグループは、独自のマネジメントシステムを活用した早期復旧計画の具体的な提案が評価された。 ゆきグループは、東海地震対策等の具体的な計画を既に策定済みであることと熔融飛灰等の貯留に関する独自の提案が評価された。
		(2)地域防災拠点の考え方	18	<ul style="list-style-type: none"> 各グループとも防災の拠点機能として、食料等の備蓄等の提案が評価された。 ほしグループは、協力会社との災害廃棄物対応の提案が評価された。 やまグループは、一時避難者以外の食料も考慮されており、充電設備のほかに車両の配備に関する提案が評価された。 ゆきグループは、近隣企業との協体制の提案が評価された。

表 非価格要素の評価の概要 (4/4)

審査項目			No.	評価の概要
大項目	中項目	小項目		
3. 資源循環型社会の拠点となる施設づくり				
3.1資源循環型社会の拠点		(1)環境学習機能、啓発施設	19	<ul style="list-style-type: none"> 各グループとも環境学習や啓発メニューが具体的な提案が評価された。 ほしグループは、具体的な運営方法と集客目標を掲げている提案が評価された。 やまグループは、専用のチームを組織して運営する提案が評価された。 ゆきグループは、地元企業等と協力して運営する提案が評価された。
		(2)見学者・来訪者対応	20	<ul style="list-style-type: none"> 各グループとも具体的な見学者ルートが示されており、充実した説明用調度設備の提案が評価された。 ほしグループは、圧倒的なスケールが体感できる提案が評価された。 やまグループは、大迫力の説明用調度設備の設置と展望スペースの設置に関する提案が評価された。 ゆきグループは、参加・体験・体感可能な説明用調度設備を設置し、独自の説明方法の提案が評価された。
4. 市民の生活・活動をサポートし、利用したいと思われるような施設づくり				
4.1地域に開かれた施設		(1)情報公開	21	<ul style="list-style-type: none"> 各グループとも工事中及び運営・維持管理業務における情報公開の手法について具体的な提案が評価された。 ほしグループは、子供に対する情報公開方法に関する提案が評価された。 やまグループは、見学者向けの情報公開方法に独自の提案が評価された。 ゆきグループは、地元との情報共有に関する具体的な提案が評価された。
		(2)市民の交流、憩いの場	22	<ul style="list-style-type: none"> 各グループともプラザ棟や工場棟に憩いの場を提供しており充実した設備を設置する提案が評価された。
4.2地域社会への貢献		(1)企業、人材活用に関する貢献	23	<ul style="list-style-type: none"> 各グループとも企業や人材への貢献に関して具体的な提案が評価された。
		(2)地域のコミュニティーに対する貢献	24	<ul style="list-style-type: none"> 各グループとも地域とのコミュニケーションに関する具体的な提案が評価された。
5. 地域の生活環境に溶け込んだ環境調和型の施設づくり				
5.1自然豊かな周辺環境との調和		(1)施設の外観、デザイン計画	25	<ul style="list-style-type: none"> ほしグループとやまグループは、圧迫感を感じない外観、デザインの提案が評価された。 ゆきグループは、周辺環境との調和をおりなす外観が評価された。
		(2)緑化計画及び緑地保全計画	26	<ul style="list-style-type: none"> 各グループともゾーニングの設定や季節感等を考慮した具体的な緑化計画の提案が評価された。

7. 総評

本事業は、新ごみ処理施設の設計・建設業務及び運営・維持管理業務について効率的、効果的かつ経済的に実施することにより、循環型社会や温室効果ガスの排出量削減、周辺環境への配慮、地域防災の拠点及び経済性に配慮した施設整備・運営事業を行うことを目的とするものである。

本事業では、3グループから応募を受け、いずれも本事業の目的を理解し要求水準を上回るものであるとともに、技術面、運営面及び価格面において民間事業者の創意工夫やノウハウが盛りこまれた高いレベルでの事業提案であった。

このような優れた事業提案をいただいた3グループに対して敬意と謝意を表する。

施設整備検討委員会では、あらかじめ公表された落札者決定基準に基づき、厳正かつ公正なる審査の結果、ほしグループを、高座清掃施設組合新ごみ処理施設整備・運営事業において、高座清掃施設組合及び構成三市の市民の期待に応えることができる落札候補者として選定した。

落札候補者として選定したほしグループの事業提案では、多くの実績と長く安定した実績を持ったストーカ炉の技術力を存分に発揮させ、施設整備の基本コンセプト及び基本コンセプトを遵守するための施設整備基本方針に掲げるすべての項目について、その実現性を高めることができる内容であったほか、最も高い発電効率や二酸化炭素排出量の削減の提案がされ、循環型社会形成推進と温室効果ガスの削減に貢献できる内容であった。

また、多様な地域コミュニティや防災拠点としての機能を備えた独自の提案がなされていた。

今後、高座清掃施設組合とほしグループが良好なパートナーシップを構築し、対等の立場で契約手続きを行い、公共事業の一環として事業目的に沿った安全・安心で循環型社会形成に寄与し得るごみ処理が実施されることを施設整備検討委員会として期待する。

そのため、ほしグループに対しては、今後、事業を実施するにあたって次の点に配慮することを望むものである。あわせて、施設整備検討委員会は高座清掃施設組合が、これらを配慮事項として反映させることを望み、ほしグループに明確に伝えるとともに、双方が誠実な協議を重ねることにより、本事業がより良いものになっていくことを期待する。

- 設計・建設及び事業運営期間をとおして、要求水準事項及び事業提案事項を誠意をもって履行すること。
- 安全・安心・安定を前提とし、長期運営を踏まえた設計・建設に配慮すること。
- 事業運営期間全体をとおして、事業提案の発電効率の継続に努めること。

- 事業運営期間全体をとおして、焼却灰等の資源化を滞りなく実施すること。
- 建設及び事業運営期間をとおして、防災の拠点機能の継続に努めること。
- 設計・建設及び事業運営期間をとおして、地元との信頼関係の維持、地域コミュニティへの協力を努めること。
- 設計・建設及び事業運営期間をとおして、地域の企業、人材活用に配慮すること。

平成 27 年 3 月
施設整備検討委員会 委員長 川本 克也